



# 広がる ニューベック ファミリー

## 「ニューベック+AIS」で 安全で確実な ナビワークが実現

小川 淳さん & 光電製作所「GTD-121」

(一財)日本水路協会が発行する航海用電子参考図「ニューベック」は、ウィンドウズパソコン上での運用に加えて、国内の航海機器メーカーの多くが、自社製品にマップデータとして導入。より多くのユーザーが気軽に使える環境ができています。ここでは、ますます広がる「ニューベックファミリー」に注目し、あれこれ紹介していく。今月は、電子チャートによるナビゲーションの豊富な経験を持つ小川 淳さんに、ニューベック搭載GPSプロッターを実際に使ってもらった。



**KODEN**

問 光電製作所  
TEL: 03-3756-6508 <https://www.koden-electronics.co.jp/>

【GTD-121】 ●画面：10.4インチカラーTFT液晶(GTD-121) ●縮尺設定範囲：0.01～1,000NM(または0.02～2,000km) ●位置登録数：100,000点 ●NMEAポート数：4(入出力4、入力1) ●電源電圧範囲：10.8～31.2V DC ●防水性能：IPX5 ●外形寸法：H334mm×W364mm×D181mm ●価格：480,000円(GPSセンサー GPS-20A付きモデル)、500,000円(DGPSセンサー KBG-3付きモデル) ※価格は税別。15インチカラーTFT液晶仕様のGTD-161も、マップデータにニューベックを搭載



ホームポートの伊豆マリンから、旧江戸川を下って東京湾へ出てみた。画面中央の緑色の丸印が、自艇(トリトンV)だ。1mごとの間隔で表示される等深線は、ニューベックならではの細かさだ

東京湾湾奥を拠点に、ポートライフを長く楽しんできた小川 淳さん。『Kazi』や『ポート倶楽部』の執筆者としてもおなじみだ。愛艇(トリトンV)(ヤマハSF-38)で、東京湾、相模湾はもちろん、時には伊豆諸島まで足を延ばすなど、アクティブに活動している。

小川さんは、電装品やクルージングに関する著作も何冊か出しているだけに、ナビゲーションには大きなこだわりを持つ。愛艇のヘルムステーションには、GPSプロッターにレーダー、魚探、AISなど、ナビゲーションツールが所狭しと並び。早くから電子チャートをナビゲーションに導入しているため、パソコン用の大きなモニターも目につく。「パソコン上で動作する電子チャートは、ニューベックの前身のベックを買ったのが最初です。当時は、自宅で航海計画を立てるために活用していましたが、その後、2003年にチャートビューワーというソフトでENC(航海用電子海図)を導入。船上で電子チャートを利用するようになり、以来10年以上愛用しています。また、バックアップ用にGPSプロッターも設置していますし、ニューベックも持っていますよ」

ENCと比べれば価格も非常に安い点が、ニューベックの魅力だという。そして、小型船舶向けに作られたニューベックだからその内容には、小川さんも注目している。

「正式な海図であるENCのデータと比べても、マップとしての精度は遜色ないと感じます。そして、位置網がきちんと表示されるのは、何よりもニューベックの大きなアドバンテージでしょう。釣りをやる方でしたら、海底地形図のデータは涙モノでは(笑)」



GTD-121は、AISなどの機器からの情報を表示させることも可能。AIS搭載船のアイコンをクリックすると、船名や針路、速度などの詳細情報が表示される。「船名が分かるので、VHFで呼びかけるときにも便利なんです」と小川さん

小川さんは、光電製作所の各種航海機器を愛用しているが、昨年、マップデータにニューベックを搭載したGPSプロッター「GTD-121 / 161」が、待望のデビューを果たした。そこで今回、10.4インチモニター仕様のGTD-121を(トリトンV)に設置し、使い勝手を試してもらった。

「まず、画面がずいぶん見やすい。パソコンやタブレットの画面は、どうしても直射日光下では見にくいことが多いのですが、さすが海で使うことを想定して作られている機器だけあって、視認性はすばらしい。また、小さなボートでは波しぶきをかぶることだって多いでしょうが、耐久性の面でも、専用の航海機器なら安心です」

さらにもう一つの大きなメリットについて、話を続ける。

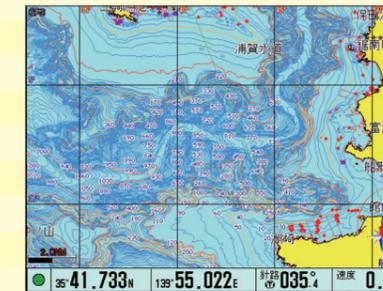
「データとしてのニューベックには、ほとんど言うことはありませんが、パソコン版の最大の不満が、AIS(船舶識別装置)による情報をマップ上に表示できない点でした。ところが、今回のGPSプロッターは、外部から取り込んだAIS情報をリアルタイムに表示させられる。大型船舶の航行が多い東京湾が私の活動エリアなので、ナビゲーションにAISは必須です。そのAIS情報を、ニューベックのマップデータの上に表示できるのですから、まさに夢のようなこと。専用機ならではの操作感でニューベックが利用できるとあっては、使わない手はありませんね」

ほかにも、GTD-121に、ATA機能を持つレーダーを接続すれば、レーダーのATA機能によって追尾している他船の航跡を、最大100件まで画面上に表示することも可能だ。

マリンユースのために開発された機器に、



小川さんが何度も訪れたことのある、新島の新島港を拡大表示してみた。「堤防の形状もきちんと表示されているし、水深も細かく表示されている。海外製のデータとは比較にならない!」(小川さん)



東京湾湾口付近を大縮尺で表示したところ。海底地形図のデータも収録しているため、複雑な改定の地形が手に取るように分かる。ポートアングラールにとっては、たまらない情報だろう

ニューベックのマップデータが搭載されたとなれば、これまで以上に安全なナビゲーションが実現する。デジタルナビゲーションを長く実践してきた小川さんも、大きな魅力を感じているようだ。



「ogaoga」こと小川 淳さん。『Kazi』誌では、今年8月号から、小川さんが執筆する「ヨット乗りのためのよくわかる電気講座」の連載がスタート。電装品からナビゲーション、クルージングまで、豊富な経験を持つ

航海用電子参考図「new pec」

JHA (一財)日本水路協会

海図ネットショップ



new pec  
ファミリー

E-CHART

KODEN

JRC

FUSOLE

FURUNO HONDEX

海釣図

「ニューベックファミリー」に新たな仲間が加わりました。日本無線(JRC)のカラープロッター「JLZ-1000」、レーダー「JMR-5400シリーズ」は、ニューベックのマップデータの表示が可能です。 ※本記事内で紹介した製品に関する問い合わせは、光電製作所まで。